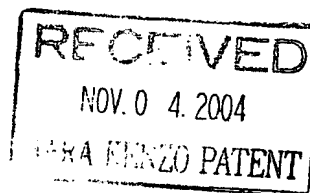


特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）



出願人代理人 原 謙三	様
あて名	
〒 530-0041 大阪府大阪市北区天神橋2丁目北2番6号 大和南森町ビル 原謙三国際特許事務所	

PCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]

発送日  
(日.月.年) 02.11.2004

出願人又は代理人 の書類記号 SK0412	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/J P 2004/012487	国際出願日 (日.月.年) 30.08.2004
優先日 (日.月.年) 29.08.2003	
国際特許分類 (IPC) Int.Cl <sup>1</sup> C12N15/09, C12N15/869, C12N5/10, A61K48/00	
出願人 (氏名又は名称) 株式会社総合医科学研究所	

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☒ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 14.10.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 飯室 里美 電話番号 03-3581-1101 内線 3448

## 第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出された P C T 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☒ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☒ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☒ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☒ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

## 第Ⅱ欄 優先権

1. ☐ 次の書類が提出されていない。

☐ 優先権の主張の基礎となる先の出願の写し（PCT規則43の2.1及び66.7(a)）

☐ 優先権の主張の基礎となる先の出願の翻訳文（PCT規則43の2.1及び66.7(b)）

したがって、優先権の主張が有効であると認めることはできないが、それでも、出願人の主張する優先日が基準日であると仮定してこの見解書を作成した。

2. ☐ この見解書は、優先権の主張が無効であると認められるので、優先権の主張がされなかったものとして作成した（PCT規則43の2.1及び64.1）。したがって、この見解書においては、上記国際出願日を基準日とする。

3. 追加の意見（必要ならば）

請求の範囲1-3, 7-13, 17-26に記載された発明のうち、HHV-6のU24およびU25領域からなる群より選ばれる少なくとも1領域に相当する部位に、外因性ヌクレオチド配列を備える、組換えウイルスベクターに関する部分、及び、請求の範囲4-10, 14-26に記載された発明の内、HHV-7のU24、U24aまたはU25領域からなる群より選ばれる少なくとも1領域に相当する部位に、外因性ヌクレオチド配列を備える、組換えウイルスベクターに関する部分については、優先権主張の基礎となる先の出願に記載されていない。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1 - 2 6	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲	1 - 2 6	有 無
	請求の範囲		
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1 - 2 6	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

請求の範囲 1 - 2 6

請求の範囲 1 - 2 6 に記載された発明は、国際調査報告で引用したいずれの文献に対しても、新規性及び進歩性を有する。

HHV-6 の U 2、U 3、U 4、U 5、U 6、U 7、U 8、U 2 4 および U 2 5 領域からなる群より選ばれる少なくとも 1 領域に相当する部位に、外因性のヌクレオチド配列を備える組換えウイルスベクター、及び HHV-7 の U 2、U 3、U 4、U 7、U 8、U 2 4、U 2 4 a または U 2 5 領域からなる群より選ばれる少なくとも 1 領域に相当する部位に、外因性のヌクレオチド配列を備える組換えウイルスベクターについては、いずれの文献にも記載されていないし、当該技術分野の専門家にとって自明のことであるとも言えない。